

主の御名を賛美します。

『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』
(詩篇 103:2)

いつも石巻宣教のためにご支援とお祈りをいただき、心から感謝いたします。



2011年3月11日午後2時46分に起きたあの「東日本大震災」から11年が過ぎました。この年月を経てようやく、あの震災は何だったのかと振り返る気持ちになって来たように思います。

しかし2014年の広島の高雨災害や2016年の熊本大地震など毎年のように各地で起きる自然災害、さらに今ウクライナで起こっている戦争や世界各地の紛争のニュースには心が痛みます。

「みくにが来ますように」と祈ります。

さて、私たちの住む東北沿岸でも、福島県沖を震源とする大きな地震が起きました。3月16日の夜中11時34分とその2分後の11時36分のこと、大きな揺れ(震度6強)に、11年前を思い出してしまいました。あの時よりも短いながら揺れは大きく感じた、という声も聞くほどで、寝入りばなの激しい揺れと携帯電話や防災ラジオの大きな警報音に飛び起きました。

揺れがおさまってからすぐに、テレビで状況確認をしましたが、津波は警報ではなく注意報で、石巻湾約10cmの予報(実際には3倍の30cmだったようです)にひとまず冷静になれました。

震災後にできた防潮堤の高さは5mありますが、あくまで避難するまでの時間稼ぎのものであり、基本は高台や安全な場所にそれぞれがてんでんに避難する「津波てんでんこ」です。今回私たちは、寒い夜中でもありましたので、教会にとどまり様子をみることを選びました。翌日は皆さんに安否や被害の確認をしましたが、幸い何事もなく、神さまの守りに感謝しました。

そのような中でしたが、19日(金)はいつものように「お茶っこ会」を行い、チャペルタイムは「YouTube モリユリちゃんねる」で動画配信された「東日本大震災追悼記念礼拝」での森祐理さんの特別賛美とお証しを観ました。「次は生で祐理さんの歌を聞きたいね」とロクにおっしゃられ、被災地支援で何度もコンサートに来てくださった祐理さんを、身近に感じておられる様子でした。

その後のティータイムでは、16日の地震の時、どう行動したのかを聞いてみました。93歳の最年長のSさんは布団の中に潜り頭を守るダンゴムシ状態にしていた、またUさんはご近所の方々と、宮城水産高校(教会から5分)に避難し、(校舎は開いていないので)外階段2階の踊り場に津波注

意報解除まで2時間いた、さらにAさんは車で避難したものの渋滞だった、などと話してくださいました。皆さんが口々に言われることは「揺れは怖いけれど、津波さえ来なければ大丈夫」です。

昨年、渡波稲井トンネルが開通し、三陸自動車道に通じる新しい道路ができたのですが、非常時には周りから車が集まり、以前からの道路と共に渋滞してしまうのが現状です。

近くには女川原子力発電所があります。福島原子力発電所で起こったような事故が起きれば、避難指示が出て、仙台方面や、登米などの内陸部に避難することになるのですが、大渋滞となるのは目に見えており、どうなるのだろうか、皆さん不安を口にされています。

しかし、イエスさまは、今、世界で起きている地震、戦争、飢饉など悲惨な状況について、これらのことは必ず起こることであると、私たちに語っておられます(マルコの福音書13:7~8)。

これらはイエスさまが地上にふたたび来られる再臨の前触れであり、主を信じる私たちにとっては待ちわびる日到来の始まりです。不安を抱えておられる人々に、救い主イエスさまの良き知らせ、福音をお伝えする使命と責任を今更ながら痛感し、魂の救いのために祈る日々です。

[クラフト教室]

齋藤 圭子 (仙台福音自由教会パッチワーク教室)



東日本大震災の翌年2012年から、キャサリン・ロング、ローナ・ギルバート両宣教師によって女川被災者のための仮設住宅でパッチワーク教室が始まりました。2年後にはロング宣教師ご夫妻がアメリカに帰国されることになり、続けてほしいとの皆さんの希望を受けて、そのあとを仙台教会が引き継ぐことになりました。どのように進めていったら良いか手探りのなか、パッチワークに限定せず色々な手芸を取り入れようと、名称をパッチワーク教室からクラフト教室へと変更しました。毎月1回2時間という制約があり、離れた仙台からでは教室以外で個別にサポートするのが難しいために、たくさんの工程を積み重ねていくパッチワークでは、ベテランの方と初心者で進度の差が大きくなってしまいます。初心者の方でも取り残されることなく毎月同じ進度と一緒に楽しめるように、できるだけ1回で完結する小物作りを中心にしたと思いました。作って楽しく、使って嬉しい実用的な作品をと心がけてきました。仙台教会パッチワーク教室の皆さんが材料準備はじめ、当日のクラフト教室でのお手伝いなど、全面的に協力して下さったことが大きな助けとなりました。クラフトの後はチャペルタイムで、吉田真知子姉が神様のことを分かりやすくお話してください、皆さん熱心に聞いてくださいました。

津波ですべてを失った方々ですが、仮設住宅での不自由な生活の中でも互いに助け合い、親しい関係を築いておられました。2016年春頃からは順次仮設住宅を出て新しい住まいに移されましたが、そのあとも毎月わざわざ仮設住宅の集会所まで、クラフト教室のために女川から通って来て下さいました。復興住宅では皆バラバラになって人と話す機会も少なくなり、手を動かしながらおしゃべりを気軽に出来るこのような場を、とても楽しみにしておられるようでした。やがて2018年春には、仮設住宅が閉じられて集会所も使えなくなりましたが、これを機にクラフト教室の場所を石巻教会に移して続けることとなりました。普段は教会に足を向ける機会がない皆さんが、女川から毎月石巻教会に来てくださり、楽しい時間を共にできたのは本当に感謝なことでした。

この間、女川からのメンバーの半数近くが80代半ばとなり、加えて2年にわたるコロナ禍、自粛生活の影響もあって、高齢の方々は遠方からの移動の負担が大きくなり、来るのが難しくなっているとお話を伺いました。同時に、私達仙台からの奉仕者も皆70の声を聴くようになり、高速道路を使っての石巻への往復を今後いつまで続けられるだろうかと考えていたところでもありました。そこで、女川の方達の申し出もあって、これを機に今年3月で復興支援としてのクラフト教室をいったん閉じることとなりました。仙台から行く私達を気遣ってくださる思いも感じました。8年にわたって繋がりのできた皆さんと会えなくなる寂しさもありましたが、これもまた備えられた一つの時と受け止めました。

一方、場所を石巻教会に移してからは、渡波(石巻教会近隣)の方々もクラフト教室に参加して下さるようになっていました。渡波の方達はできれば続けてほしいとの希望を持っていて、今年に入ってから新しく加わった方もいますので、この方たちのためにも何らかの形で続けたいという思いが高橋先生ご夫妻に与えられていることを知りました。もしそのように導かれるなら、こちらで材料準備など喜んでサポートしたいと思うとともに、インターネットの活用など新しいことにも挑戦して支えていけないかと考え、試行錯誤しながら作製手順を動画にして分かり易くすることができるよう、初めての動画制作にチャレンジしているところです。

と、この原稿をここまで書き進めてきたところで、状況がまた新しい方向に動いてきています。4月からもクラフト教室が形を少し変えながらも続いていくのなら、今度は個人としてクラフト教室に参加したいという声が女川のメンバーの中から上がっています。これもまた本当に感謝なことです。これから更に神様がどのように導いてくださるか期待しつつ、それぞれができることを持ち寄って、喜んでお仕えしていけたらと願っています。

【祈りの課題】

1. 礼拝が喜びの賛美で満ち溢れ、いのちのみことばで魂が励まされますように。
2. イエス・キリストを信じ、救われ、洗礼を受ける方が起こされますように。
3. 月二回(第1、第3金曜日)の「お茶っこ会」が主に用いられ、神を求める方、救われる魂が起こされますように。また、礼拝に繋がりますように。
4. クラフト教室が主に用いられ、神を求める方、救われる魂が起こされますように。
5. クリスチャンが与えられますように。
6. 新型コロナウイルス感染から教会、地域の方々が守られますように。

☆石巻宣教支援会へのご支援と、お祈りを心から感謝します。